

平成 14 年 9 月 27 日

国立大学協会第 2 常置委員会

委員長 中村 睦男 殿

社団法人情報処理学会 会長 鶴保証城



理工系情報学科協議会 会長 阿草清滋



日本ソフトウェア科学会 理事 阿草清滋



平成 18 年度からの大学入試センター試験における教科「情報」
の取り扱いについて (要望)

貴委員会は、国立大学協会とともに、本年 6 月 11 日、大学入試センターに対する要望書、「平成 18 年度からのセンター試験の出題教科・科目等について—中間まとめ—」に対する意見について”を提出されました。その中で、「情報」教科の取り扱いについては、各大学の利用予定、大学入試センター試験日程の調整、教科の内容が実技、実習に重点が置かれている等を勘案のうえ、その取り扱いについては慎重に検討いただきたい。”という意見を表明しておられます。

一方、情報処理学会および理工系情報学科協議会は、情報分野の研究と教育に携わる専門的な見地から、大学入試センターに対して 8 月に、それぞれ意見書 (別添資料 1, 2) を提出し、他の必修 6 教科と同様、普通教科「情報」を出題教科として速やかに決定するよう、要請いたしました。日本ソフトウェア科学会もまたこの要請に賛同し、共同でここに意見を表すことといたしました。

本格的な情報社会の到来を迎えた今、情報とその扱いに関する基礎的な理解と素養が広く行きわたることは、人間社会の将来のために非常に重要なことです。この視点で平成 14/15 年度から初等中等教育段階で本格的な情報教育が開始されることは、誠に喜ばしいことです。大学等における高等教育にあつては、高校において習得した知識と問題解決の手法を大学教育との接続・連携のもとで定着させることが重要であり、そのためには、大学入試センター試験において、普通教科「情報」を必修教科として位置付ける必要があります。この点に関して、貴委員会のご理解を頂きたいと考えます。

普通教科「情報」は、問題解決に代表されるプロジェクト型の学習を重視して、「情報 A」では学習時間の 1/2 を、「情報 B」「情報 C」では 1/3 を「実習」ととしています。これは、情

報処理における人と情報システムとの協調の体得を通して情報技術を個人に内在化させ、これによって個人の知識・理解を外在化させることを可能にするための時間として設定されたものです。この教科を履修して昇華された学力は、他の必履修教科と同様、一般的な学習力へと昇華され、大学教育における学習力にも転化していくものと期待されます。情報処理学会では、普通教科「情報」の履修を終えた学習者の学力評価方法の検討を平成12年頃から開始しましたが、その後、大学における「情報科」教員養成カリキュラムの研究に継承され、情報教育の専門家によって、学力として把握・認定する研究が進められ、肯定的な報告が公刊されていることも付記します（別添資料3）。この点に関しても、貴委員会のご理解を進めて頂きたいと考えます。

教科「情報」が大学入試センター試験の出題教科となった場合に、国立大学をはじめ、諸大学における利用計画等の諸問題が存することは理解いたしますが、私たちは必履修教科のセンター試験における位置付けの重要さに鑑み、大学入試センターにおける前向きなご検討を要請したところであり、貴委員会ならびに国立大学協会のご理解を頂きたく、重ねて要望いたします。

以上

別添資料

1. 情報処理学会から大学入試センター宛の平成14年8月22日付書簡の写し
2. 理工系情報学科協議会から大学入試センター宛の平成14年8月19日付書簡の写し
3. “高校普通科「情報」のための教員養成カリキュラムと教員免許の履修形態に関する研究”（平成12年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表者 岡本敏雄、平成13年3月）第4章1節、2節、pp.88-116.

注：要望書に記載した普通教科「情報」履修者の学力評価方法の検討の報告例として添付します。